

シラバス 学校番号 11

令和5年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	国語 (現代の国語)	1 学年全	新編 現代の国語 (第一学習社)	新編現代の国語(第一学習社) 現代文ウイニングクリア(尚文出版) 常用漢字の1・2トライ(浜島書店)			
指導の 目 標	国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
評価の 観 点	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に学習に取り組む態度				
	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。				
月	単元	時数	学 習 内 容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	『『未知』はいくらでもある』	6	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の経験や考え方を理解する。 ・筆者の体験を自身に照らして考えを深める。 ・随想独特の表現の工夫を理解する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
5	「ナマケモノになる」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を理解する。 ・内容や構成、論理の展開を整理して理解する。 ・語句の意味を正しく理解し、語彙を増やす。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
6	「言語としてのピクトグラム」 「言葉の海のオノマトペ」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムや音声など「言語」の様々な機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。 ・写真や音声などの情報と意味を関連付けながら、文章の内容を的確に理解する。 ・ピクトグラムの案やオノマトペを使った短文を作り、自分の考えを説明する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 発表 提出物	○	○	○
7	言語活動 「話し方の工夫」 「スピーチで自分を伝える」 「待遇表現」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、相手・目的・場面に応じた言語表現をする。 ・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・相手や場に応じた表現を選択して使い方を理解する。 	活動の様子 発表 ノート点検 提出物	○	○	○

月	単元・学習内容	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
9	「論理的な表現」 「情報の探索と選択」 「情報源の明示」 「書き方の基礎レッスン」 「身近な製品の取扱説明書を作成する」 論理分析 対比 「『間』の感覚」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・表記・表現の基本的なきまりを理解し、接続表現や比喻などの表現技法を理解する。 ・対比構造を用いた論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・主張と根拠、個別と一般化など情報と情報の関係を理解する。 ・論理の展開を分析的に読み、要約や図にまとめる。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 発表 提出物	○	○	○
10	「十六歳のとき」 「臆病な詩人、街へ出る」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・筆者の旅を追体験し、筆者の体験が人生に与えた影響について考えを深める。 ・語句の意味を正しく理解し、語彙を増やす。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
11	「『弱いロボット』の誕生」 「人はなぜ仕事をするのか」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・物事に対する筆者の考え方を知り、自身の考えを深める。 ・語句の意味を正しく理解し、語彙を増やす。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 発表 提出物	○	○	○
12	「イースター島になぜ森がないのか」 「『材料科学』のゆくえ」 言語活動 「相手に伝わる案内をする」 「理想の修学旅行をプレゼンする」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・筆者が提示する人類と生態系や、人類と科学の発展との関係について理解する。 ・持続可能性や科学の発展について、自身の考えを深める。 ・目的に沿って、他者に対して的確に情報を説明する。 ・発表者と評価者を務め、お互いの発表を評価する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 発表 提出物	○	○	○

月	単元・学習内容	時数	学 習 内 容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
1	論理分析 具体と抽象 「日本語は世界を このように捉える」 推論 「AIは哲学できる か」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・一般化と具体例、主張と論拠など、情報と情報の関係を理解する。 ・文章の構造や要旨を把握し、具体例や仮説を多用した論理の展開について理解する。 	定期考査 活動の様子 発表 ノート点検 提出物	○	○	○
2	「図書委員会のポスターの掲示内容を検討する」 「法律の改正に関わる文章を読み比べる」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や会話文等を関連付けながら、必要な情報を読み取る。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる。 	定期考査 活動の様子 発表 ノート点検 提出物	○	○	○
3	言語活動 「地域の魅力を紹介する」 「実用的な手紙文の書き方」 「自校の生徒の生活実態を調査する」 「社会に対する意見文を書く」 「合意形成のための話し合いを行う」	5	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすく説明する。 ・お互いの発表を批評し合い、表現の工夫について考えを深める。 	活動の様子 発表 ノート点検 提出物	○	○	○

シラバス 学校番号11

令和5年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
3	国語 (言語文化)	1学年全	新編 言語文化 (第一学習社)	新編言語文化(第一学習社) 古典ウイニングクリア1(尚文出版) 古典文法クリアノート(尚文出版)			
指導の 目 標	国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
評価の 観 点	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に学習に取り組む態度				
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、伝統的な言語文化の特質や言葉のきまりなどに対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。				
月	単 元	時数	学 習 内 容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	小説 「よろこびの歌」 「島の少年一船」	8	<ul style="list-style-type: none"> 全体の構成をとらえて概要を把握し物語の展開を理解する。 登場人物の心情を、それぞれの立場に立って読み解き、心情の変化を理解する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
5	「古文の学習」 「鳩と蟻のこと」 「古文を読むために①」 「一休ばなし」 「児のそら寝」 「古文を読むために②」 「なよ竹のかぐや姫」 「古文を読むために③」	11	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いについて、文語のきまりや読み方を理解する。 説話や作り物語という文章の種類をふまえて、内容を的確にとらえる。 特に古今異義語や動詞の活用について理解し、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 現代に通じる人間のありようや物語の読み取りを通して、古文の世界に親しむ。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
6	「漢文の学習」 「訓読に親しむ(一)～(三)」 「漢文を読むために①～③」 故事成語 「五十歩百歩」 「矛盾」 「狐借虎威」	9	<ul style="list-style-type: none"> 訓読のきまりや訓点のつけ方を学ぶ。 書き下し文に直し、内容を的確にとらえる。 故事成語の意味を調べ、用法をとらえることで語彙を豊かにする。 古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○

月	単元・学習内容	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
7	詩 「道程」 「小景異情」 「六月」 「I was born」	6	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの詩や詩人の特徴を理解し、作者の思いを読み取る。 詩の種類や、表現技法とその効果について理解する。 詩のイメージを共有し、考えたことを発表する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物 発表	○	○	○
9	小説 「羅生門」 「ほねとたね」	12	<ul style="list-style-type: none"> 全体の構成をとらえて概要を把握し物語の展開を理解する。 登場人物の行動や会話をもとに、心情の変化を的確に捉える。 物語の主題や、登場人物のその後について考え発表する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物 発表	○	○	○
10	「徒然草」 「枕草子」 「方丈記」 「古文を読むために④」	10	<ul style="list-style-type: none"> 作者の関心事や当時の人々の生活を読み取り、内容を的確に把握する。 作品に表れたものの見方や美意識を理解し、その特徴について考える。 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
11	小説 「鏡」 「よだかの星」 自伝 「わたしはマララ」	12	<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容や構成、展開を的確に捉える。 作品に含まれる寓意や、登場人物が置かれた状況・言動から、人間の内面を読み取る。 暗喩や比喩の効果、表現の工夫が果たす役割を理解する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
12	唐詩の世界 「春暁」「静夜思」 「送元二使安西」 「春望」「香炉峰下新卜山居…」 日本の漢詩 「読家書」 「桂林荘雑詠、示諸生」 「道情」	6	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩を訓読し、口語訳する。・作品に表れる自然の情景や人事に向けた思いを的確に読み取る。 漢詩のきまりや表現技法を理解する。 読まれた心情を理解し、現代語で自分なりの訳詞を書いて発表する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物 発表	○	○	○

月	単元・学習内容	時数	学 習 内 容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
1	「伊勢物語 筒井筒」	10	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語の特色をふまえ、話の内容や展開を的確に捉える。 ・物語の登場人物の行動や心情を表現に即して読み味わう。 ・平安貴族の生活や美意識、ものの見方や考え方について理解する。 ・和歌の表現技法や用言の活用について理解し、語彙を豊かにする。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
2	「人形浄瑠璃音楽 一三位一体の技」 「祭りの笛」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆の特徴をふまえ、内容や構成、展開を的確に捉える。 ・我が国の伝統芸能に関して、扱われている題材や関連する事柄について調べ、資料にまとめる。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
	「万葉・古今・新古今」		<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞技法や鑑賞の仕方について理解する。 ・作品に表れる自然の情景や心情を的確に読み取る。 ・読まれた心情を理解し、現代語で自分なりの訳詞を書いて発表する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
3	「奥の細道」	3	<ul style="list-style-type: none"> ・俳諧紀行文の特徴をふまえ、内容や展開を的確に捉える。 ・作者の旅程を追体験し、作品に表れているものの見方や感じ方を考える。 ・俳句のきまりや語句について理解し、語彙を増やす。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○
	「両頭蛇」 「梟逢鳩」		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や話の展開を把握し、作品中に示された教訓や寓意を的確に読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を理解する。 	定期考査 ノート点検 活動の様子 提出物	○	○	○

令和5年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	公民(公共)	1学年全	高等学校 公共 (第一学習社)	最新図説 公共(浜島書店) 公共ノート(第一学習社)			
指導の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸問題を捉え、基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、基本的な事柄や知識を身に付ける。 ・そこから現代社会の諸課題を見だし、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する力をつける。 ・意欲的に課題を追究し、人間としての在り方生き方について自覚を深める 						
評価の 観点	① 知識及び技能	② 思考力・判断力・表現力	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	・単元で扱われる事柄を理解する上で必要な、概念や理論を表す用語を習得する。	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連性を考えることができる。 ・習得した用語を、自分の言葉、表現で説明することができる。	・よりよい社会の実現に向けて、主体的に学習に取り組むことができる。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち I 公共的な空間と人間とのかわり II 社会に参画する自立した主体として	5	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査	○	○	
5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 I 人間としてのあり方生き方についての探求	5	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。			○	○
6	第3章 公共的な空間における基本的原理 I 自立した主体となることに向けて II よりよい公共的な空間づくりをめざして 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	10	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。		○	○	
7	第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割	5	・憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。		○		○
9	主題2 契約と消費者の権利・責任 主題3 司法参加の意義	3 2	・契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 ・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。		○		○
					○	○	

10	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成	3	・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 ・民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。				○	○	
11	主題5 国際社会と国家主権	5	・主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。						○
	主題6 日本の安全保障と防衛	3	・日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。				○		○
12	主題7 国際社会の変化と日本の役割	4	・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。				○	○	
	第3章 経済的な主体となる私たち								
1	主題8 雇用と労働問題	5	・公正かつ自由な経済活動をおこなうことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 ・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。				○		○
	主題9 社会の変化と職業観	3	・グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。				○	○	
2	主題10 市場経済の機能と限界	3	・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。				○	○	
	主題11 財政の役割と社会保障	4	・少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。				○	○	
	主題12 経済のグローバル化	5	・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。				○	○	
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①地球環境問題～排出量取引を考える ②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える ③生命倫理～ゲノム編集を考える ④情報～インターネットによる投票を考える ⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える	5	持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。				○		○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	地理歴史 (歴史総合)	2 学年全	詳述歴史総合 (実教出版)	新詳歴史総合 (浜島書店) 詳述歴史総合徹底整理演習 ノート (実教出版)			
指導の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを理解する。 近現代史への興味・関心を高め、意欲的に授業に取り組む態度を育てる。 						
評価の 観 点	① 知識及び技能 ・単元で扱われる事柄を理解する上で必要な、概念や理論を表す用語を習得する。	② 思考力・判断力・表現力 ・出来事について、なぜそれが起こったのか、時代の流れや人々の思惑などを考える。	③ 主体的に学習に取り組む態度 ・他者との共生の歴史を知ることについて、主体的に学習に取り組むことができる。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4 5	第1章 近代化への胎動	10	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解させる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査	○	○	
6	第2章 欧米の市民革命と 国民国家の形成	9	・産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。		○	○	
7 9	第3章 アジアの変容と 日本の近代化	11	・日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などに関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。		○		○
10	第4章 帝国主義の時代	7	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。		○	○	
11	第5章 第一次世界大戦と 大衆社会	10	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解させる。		○	○	
12 1 2	第6章 経済危機と 第二次世界大戦	12	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解させる。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解させる。		○	○	○
	第7章 冷戦と脱植民地化	4	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の		○		○

3	第8章 多極化する世界	4	<p>高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解させる。 		○	○	
	第9章 グローバル化と現代世界	3	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解させる。 			○	○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	地理歴史 (地理総合)	2 学年全	高等学校 地理総合-世界を学び、地域をつくる(第一学習社)	CONNECT地理総合 (第一学習社) 地理総合ノート (第一学習社)			
指導の 目 標	地理学習において、主体的・対話的で深い学びを達成するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。						
評価の 観 点	① 知識及び技能 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	② 思考力・判断力・表現力 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間の相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	③ 主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4 5	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 ・メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。 ・インターネットを使ってさまざまなウェブ地図にアクセスし、日常的に使われているGNSSやGISなど、新しい地図表現の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業状況 ・小テスト ・ノート提出 ・課題提出 ・定期考査 	○	○	○
6 7	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	5	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 		○	○	○
	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	5	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業状況 ・小テスト ・ノート提出 ・課題提出 ・定期考査 	○	○	○
					○	○	○

9	2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して	5	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 		○	○	
10	3節 自然と調和した豊かな社会に向けて	3	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。 ・居住・都市問題について発展途上国ではスラム、先進国ではインナーシティ問題などが現れていることを理解する。 ・通学路や学校周辺の空き家など、身の回りの都市問題に関心を持ち、地域の課題解決に向け学習した内容を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業状況 ・小テスト ・ノート提出 ・課題提出 ・定期考査 	○	○	○
11	4節 現役世代と将来世代のための地球	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 		○	○	
12	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災	8	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の民族とは、共通の帰属意識（アイデンティティ）を持つ集団であり、世界の多くの国は複数の民族により構成される多民族国家であり、多文化社会を構成して多民族が共生している国もあれば、内部に対立を抱える国も存在することを理解できる。 ・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島周辺は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 ・日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。 ・自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。 ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害 ・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 ・自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり、市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして、最も起こりやすいと想定されている災害は何か、また避難時に障害となるところはどこか、など、地域とそこに住む住民とともに減災に向け 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業状況 ・小テスト ・ノート提出 ・課題提出 	○	○	○

3	2章 生活圏の調査と地域の展望	4 て意欲的に取り組む。 ・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。 ・地域調査の一環として、資料収集・現地調査を行い、的確な統計地図やグラフを作成して報告書をまとめ、発表する。 ・地域調査を通して、地域のさまざまな事象に対し5W1Hの発問を設定して課題を抽出し、その解決策を提案し、共有する。 ・成人年齢が18歳になることを踏まえ、地域調査を通して、地域の課題に対する地方自治体の政策を調べ、主権者として地域の諸課題を解決する方法について考察を深めることができている。	・定期考査	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
---	-----------------	---	-------	------------	---------------------	---------------------

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	地理歴史 (地理)	3年 選択	新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	フォトグラフィア地理図説 2022(とうほう)				
指導の 目 標	日本や世界に見られる諸事象を地理的事象ととらえ、地理的な見方・考え方を培う学習を通して地理的認識を深めるとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。							
評価の 観 点	① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 技能	④ 知識・理解				
	日本や世界が抱える地理的諸課題の解決に向けて意欲的学ぼうとしている。	日本や世界が抱える地理的諸課題の背景を考察し、仮説の設定と検証を経て、諸課題の解決の方向性や将来の展望を的確に表現している。	地理的諸課題の調査の流れのなかで、その目的にしたがって、日本や世界に関する諸資料を適切に収集し、読み取っている。	地理的諸課題に関する知識を身につけ、その背景を理解している。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
4 5 6 7	農林水産業	20	<ul style="list-style-type: none"> ○農業立地の成立要因について自然, 社会, 市場との距離, 経済水準, 国家政策の側面から理解を深める。 ○森林資源の分布と役割ならびに林業の現状について理解を深める。 ○水産業の特色, 水産資源の分布, 水産物貿易の現状について理解を深める。 ○食料の供給・生産・流通における地域差を地球的視野から大観する。 ○緑の革命や遺伝子組み換え食品といった食料増産へ向けた世界的な取り組みの現状とその問題点について理解を深める。 ○食料不足の解決へ向けた国際協力の現状と課題, 今後の展望について理解を深める 	ノート ワーク 定期考査 レポート	○	○	○	○
9	エネルギーと鉱産資源	10	<ul style="list-style-type: none"> ○工業立地の条件がどのように類型化されるのか理解を深めるとともに, 立地の変化要因とそれによって生じる問題点について考える。 					
10	第三次産業と交通・通信	5	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス産業の特徴や変化について理解を深める。 ○交通手段や情報通信の特徴や変化について理解を深める。 					
	消費と観光	7	<ul style="list-style-type: none"> ○先進国と発展途上国の消費行動の特徴について理解を深める。 ○人々の日常の活動から行動空間を抽出し, 消費活動の特性について理解を深める。 ○余暇行動が拡大していった社会的背景について多面的・多角的に理解を深める。 	ノート ワーク 定期考査 レポート	○	○	○	○
11	人口	10	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の人口分布と人口推移の現状につい 					

1 2	都市・村落 民族・言語・宗教	5	<p>て地球的視野から大観する。</p> <p>○人口動態の推移について理解を深めるとともに、各国の置かれた社会状況を読み解く手段としての人口ピラミッドの有効性に気づく。</p> <p>○地球規模での人口移動の変遷について歴史的背景から理解を深める。</p> <p>○労働者と難民を事例に地球規模での人口移動の特徴とその社会的背景について理解を深める。</p> <p>○都市の発達や大都市圏の形成過程について多面的に理解を深める。</p> <p>○都市システムが形成される背景について都市の階層性との関わりから理解を深める。</p>	<p>ノート</p> <p>ワーク</p> <p>定期考査</p> <p>レポート</p>	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
1	現代の国家と領土問題	8	<p>○民族についての定義を踏まえた上で、国民国家やエスニシティとの関係性について理解を深める。</p> <p>○言語と宗教を軸に、現代世界における文化の多様性について理解する。</p> <p>○国家の領域や国境の概念について具体例をあげながら理解を深める。</p> <p>○領土問題の発生要因について理解するとともに、地球的視野に立って解決策について考える。</p> <p>○日本の地理的位置と領域、日本の抱える領土問題を取り上げ、世界的な見地から日本という国を理解する。</p>	<p>ノート</p> <p>ワーク</p> <p>定期考査</p> <p>レポート</p>	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	地理歴史 (日本史B)	3年選択	日本史B (実教出版)	新詳日本史 (浜島書店)				
指導の 目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。							
評価の 観点	① 関心・意欲・態度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	② 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	③ 技能 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	④ 知識・理解 我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
4	第7章 幕藩体制の展開と近世の文化 1. ヨーロッパ人の来航 2. 織豊政権 3. 桃山文化 4. 幕藩体制の成立 5. 鎖国	6	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代を背景に鉄砲・キリスト教の伝来や南蛮文化がもたらされたことを理解する。 ・織田信長・豊臣秀吉の天下統一過程の特色と意義、検地・刀狩り、朝鮮侵略などの統治・外交政策について諸資料を活用して理解する。 ・桃山文化について、南蛮貿易などの影響をふまえて図像・写真資料などを基に理解する。 ・江戸幕府の成立過程と幕藩体制の特質を年表・地図・模式図や諸資料より考察し理解する。 ・江戸初期外交から鎖国体制に至る経緯について理解する。オランダ・中国・朝鮮・琉球・蝦夷地での交易が続いたことも認識し理解する。 ・身分制を基礎とする近世社会について理解するとともに、農村の生活や都市の生活について確認する。 	大航海時代を背景に鉄砲・キリスト教伝来、南蛮貿易について影響を考察している。 織豊政権の統一過程と統治外交政策を理解している。 幕藩体制の確立を大名・朝廷・宗教・民衆政策などから考察し理解している。 初期外交から鎖国体制に至る経緯を世界情勢をふまえ諸資料より考察している。	○	○	○	○
5 6	第8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟 1. 幕府政治の転換 2. 幕藩体制の動揺と幕政の改革 3. 欧米列強の接近と天保の改革 4. 江戸中・後期の文化	16	<ul style="list-style-type: none"> ・武断政治から文治政治への転換について、幕府の安定と秩序の確立の視点から理解するとともに綱吉の治世・正徳の治を考察する。 ・享保の改革、田沼意次による改革、寛政の改革の特色について理解する。 ・世界情勢の変化や幕府の対処から幕藩体制が動揺していく過程を理解し、天保の改革の特色と雄藩の改革の特質について考察する。 ・江戸中・後期の文化、化政文化について、図像・写真資料などを基に理解する。 	文治政治への転換と綱吉の治世・正徳の治についてその意義を理解している。 享保の改革・田沼時代・寛政の改革の特質について考察している。 天保の改革・雄藩の改革について理解している。 元禄文化及び化政文化の特色・諸学問の発展に関して説明できる。	○	○	○	○
7 9	第9章 近代への転換 1. 開国 2. 明治維新 3. 四民平等と富国強兵 4. 初期外交と国内政治 5. 文明開化	16	<ul style="list-style-type: none"> ・開国から明治維新に至る経緯について国際関係をふまえた上で年表を基に理解する。 ・近代化を図る明治新政府の政治的・国家的統一過程を考察し理解する。 ・岩倉使節団の派遣について考察する。 ・欧米文化の受容による文明開化について諸資料より理解する。 	開国から明治新政府の成立について理解している。 近代化を図る新政府の政治・諸制度の改革について理解している。 初期の外交・国境の画定について国際関係を考察し理解している。	○	○	○	○
10	第10章 近代国家形成 1. 民権運動の展開	8	<ul style="list-style-type: none"> ・士族反乱の後、自由民権運動のはじまりから大同団結運動に至る経緯と国会開設に向かう動き 	国会開設に向かう経緯について一連の事件などを	○	○	○	○

	<p>2. 立憲政治への道</p> <p>3. 初期議会と日清戦争</p> <p>4. 政党の進出と日露戦争</p>		<p>について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の制定と法律の整備, 国家機構及び地方制度の確立について理解する。 ・初期議会の政府と民党のそれぞれの主張を考察し, 議会の展開について理解する。 ・朝鮮問題を機とする日清戦争の経緯とその後の情勢及び条約改正への影響を考察する。 ・帝国主義の時代となり, 中国の分割が進められ, 利権をめぐる日露戦争が起こったこと, 朝鮮の植民地化やその後の外交政策について諸外国の動向と関連づけて考察し理解する。 	<p>通して理解している。</p> <p>立憲国家成立の意義及び初期議会の展開について理解し説明できる。</p> <p>日清戦争・条約改正について欧米の動きを通して考察理解している。</p> <p>日露戦争・韓国併合などについて世界史的視野にたち理解している。</p>	○	○	○
11	<p>第11章 両大戦間の日本と市民文化</p> <p>1. 第一次世界大戦</p> <p>2. 大戦後の内外環境</p> <p>3. 政党政治の展開</p> <p>4. 市民文化の展開</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の政治動向と中国侵略政策について国際関係をふまえて理解する。 ・日本の社会・経済や政治に及ぼした影響について確認するとともに, 大正デモクラシーの風潮と政党政治の進展やワシントン体制の確立など国際関係について理解する。 ・市民文化の展開についてデモクラシー思想・学術の発展・文学・芸術の面から理解する。 	<p>第一次世界大戦前後の日本の社会・経済・政治動向及び国際関係について諸資料より考察し理解している。</p> <p>市民文化の展開について諸資料を活用し説明できる。</p>	○	○	○
12	<p>第12章 十五年戦争</p> <p>1. 満州事変</p> <p>2. 日中戦争</p> <p>3. アジア・太平洋戦争</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和恐慌が深刻化する中でおこる満州事変とファシズムの台頭と日本の国際的孤立について世界史的視野に立ち考察し理解する。 ・満州事変から日中戦争へと進展する経緯と軍部による全体主義的な国家体制への転換及び国民生活について諸資料より考察する。 ・アジア・太平洋戦争についてその経過と総力体制に組み込まれていく国民生活について諸資料より理解する。戦争の損害・犠牲・惨禍についてはアジア諸国も含めて確認する。 	<p>満州事変の経緯とファシズムの台頭及び日中戦争の長期化と国内の状況を理解している。</p> <p>アジア・太平洋戦争と国民生活及びアジアへの損害・戦争の惨禍について諸資料を通して理解している。</p>	○	○	○
1	<p>第13章 現代の日本と新しい文化</p> <p>1. 占領と民主政策</p> <p>2. サンフランシスコ講和会議と安保体制</p> <p>3. 高度経済成長下の日本</p> <p>4. 経済大国日本と国民生活</p> <p>5. 世界史の転換と日本</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の世界秩序をふまえ, 占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について, その経過と内容を理解する。また, 日本国憲法制定の意義について理解する。 ・冷戦の本格化が進む中で占領終結・日本の独立の意義について考察し, その後の日米関係・日米安全保障の意味を理解する。 ・朝鮮戦争の特需による経済復興とその後の高度経済成長について, ベトナム戦争・沖縄返還・日中国交正常化などの出来事に着目して考察するとともに, 経済成長がもたらしたひずみである公害・社会問題について考察する。 ・IMF体制の崩壊と石油危機により高度経済成長の時代が終焉し, 緩やかな経済成長を続ける日本における国内の経済・政治の動向を国際情勢の変化をふまえて理解する。 ・冷戦体制の終結とそれに関わる国際関係・世界情勢と国内の状況について, 日本の政治・外交・経済・生活文化面をふまえて考察する。 	<p>占領政策と民主化政策について理解するとともに日本国憲法制定の歴史的意義について理解している。</p> <p>国際情勢をふまえて国際社会へ復帰した日本について沖縄の問題も認識し考察できる。</p> <p>高度成長の経緯と終焉について公害などの社会問題や国際関係をふまえて理解している。</p> <p>冷戦後の世界について多面・多角的に考察している。</p> <p>戦争遺跡について自らの考えを論述している。</p>	○	○	○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
4	数学 (数学 I)	第 1 学年 全クラス	最新 数学 I (数研出版)	パラレルノート数学 I はぎ取り式練習ドリル数学 I (数研出版)			
指導の 目 標	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の 観 点	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力		③主体的に学習に取り組む態度			
	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	第 1 章 数と式 第 1 節 数と式 1 多項式 2 多項式の加法・減法・乗法 3 展開の公式 4 式の展開の工夫 5 因数分解 6 いろいろな因数分解	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の整理の方法、整式の加法・減法を理解する。 ・整式の乗法を学習し、より効率よく展開するために公式を利用することを理解する。 ・共通因数をくり出すことや公式を使って因数分解する方法を理解する。 ・無理数、実数の意味とその性質を理解する。 ・平方根の意味やその計算、有理化の方法を理解する。 ・数量関係を不等式で表す。また、不等式の性質や不等式の解の意味を理解する。 ・1次不等式の解法を理解し、それを利用して身近な事象について考察する。 	定期考査	○	○	
5	第 2 節 実数 7 実数 8 根号を含む式の計算			問題集	○	○	○
6	第 3 節 1次不等式 9 不等式 10 不等式の性質 11 1次不等式の解き方			週末課題	○	○	○
				授業ノート			○
				学習活動への参加の仕方や態度			○
				質問に対する発表の内容	○	○	○

1	第2節 正弦定理・余弦定理 6 正弦定理 7 余弦定理 8 三角形の面積 9 図形の計量	25	・正弦定理と余弦定理を理解し、それらを利用して未知である辺の長さや角の大きさを求める。 ・三角比を利用して、三角形や多角形、立体の面積や体積を求める。	定期考査 小テスト プリント	○	○	
2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばり 4 データの相関 5 相関係数 6 分割表 7 仮説検定の考え方	10	・データに関する基本的な用語・記号を理解する。 ・データを適切に表し、データの傾向をとらえる。 ・2つのデータを散布図に表し、2つのデータの相関関係の有無を判断する。 ・2つのデータの間を、相関係数を計算することにより具体的に数値で表し、判断する。 ・分割表の意味を理解し、数値の割合を計算して新たな表を作成する。 ・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考える。	授業ノート 問題集 週末課題 学習活動への参加の仕方や態度 質問に対する発表の内容			○
3					○	○	○

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	理科 (物理基礎)	2年 (選択者)	新編 物理基礎 (数研)	リードLightノート 物理基礎(数研)				
指導の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 物理の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的なものの見方・考え方を育成する。 身近な運動や物理現象について、興味・関心を持たせる。 基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。 							
評価の 観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
	自然の物理的な事物・現象に 対して、基本的な概念や原理 ・法則を理解し、実験の技能を 習得する。		自然の物理的な事物・現象に 関わり、観察・実験の過程で 課題を解決し、及びその結果 を的確に表現することを目指す。		自然の物理的な事物・現象に ついて関心・探究心を持ち、意 欲的にそれらを探究すること に、態度を身につけようとして いる。			
月	単元・学習内容	時数	学習活動	指導上の留意	評価方法	評価の観点		
						①	②	③
4	第1編 運動とエネルギー 第1章 物体の運動 ・速度、加速度 ・落下の運動	10	・日常で見られるさ まざまな運動の表 方や規則性を学ぶ。	・運動の多様性と基 本的な概念や原理・ 法則が理解させる。	プリント	○		○
5	第2章 力と運動 ・力とのはたらき ・力のつり合い ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・圧力と浮力	10	・力は、物体の変形 や運動状態の変化の 原因となるものでは あることを学習する。 ・運動の法則に基づ き、様々な運動を再 現する。	・力はベクトル量で あり、合成や分解が できることを理解さ せる。 ・具体例を用いて、 運動方程式の立て方 を習得させる。	プリント 考査 ワーク提出ノ ート提出	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
6	第3章 仕事と力学的 エネルギー ・仕事	15	・仕事とエネルギー の関係を学ぶ。 ・力学的エネルギー 保存則の式の立て方 について理解する。	・仕事の定義を正確 に把握させる。 ・力学的エネルギー と保存力との関係に ついて理解させる。	考査 ワーク提出ノ ート提出	○ ○	○ ○	○ ○
7	・運動エネルギー	10						
9	・位置エネルギー ・力学的エネルギーの 保存							
10	第2編 熱 第1章 熱とエネルギ ー ・熱と熱量 ・熱と物質の状態 ・熱と仕事	15	・熱容量や比熱の定 義を理解し、温度を ΔT [K] 変化させる のに必要な熱量を、 熱容量や比熱を用い て表す。	・熱がエネルギーの 一形態であることを 理解させる。	プリント 考査 ワーク提出	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
11								
12	第3編 波 第1章 波の性質 ・波と媒質の運動 ・重ね合わせの原理	7	・身のまわりの波動 現象に共通する性質 や特徴を学ぶ。	・波動の基本性質で ある、振幅・波長・ 振動数・周期・波の 速さを基に干渉・回 折を理解させる。	考査 ワーク提出ノ ート提出 プリント			○
1								
2	第2章 音 ・音の性質 ・発音体の振動	3	・音の発生と伝わり 方を学ぶ。	・音の波動としての 性質や特有の性質を 理解させる。	考査 ノート提出 ワーク提出	○ ○	○ ○	○ ○
3	・共振、共鳴					○	○	○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	理科 (化学基礎)	1 年 (全)	化学基礎 (東京書籍)	ニューアチーブ化学基礎 (東京書籍)				
指導の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 							
評価の 観 点	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px solid black;">① 知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</td> <td style="width: 33%; border-right: 1px solid black;">② 思考力・判断力・表現力 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。</td> <td style="width: 33%;">③ 主体的に学習に取り組む態度 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</td> </tr> </table>				① 知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	② 思考力・判断力・表現力 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	③ 主体的に学習に取り組む態度 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
① 知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	② 思考力・判断力・表現力 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	③ 主体的に学習に取り組む態度 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。						
月	単元・学習内容	時数	学習活動	指導上の留意	評価方法	評価の観点		
						①	②	③
4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か	2	・身近な物質がどのような元素できているか、元素記号と共に種類と性質を理解する。	・身近な物質の構成成分がわかりにくくなっているので具体的に成分元素を理解させる。	プリント 授業態度 発問評価 ワーク 実験	○		○
5	2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分 2 節 物質の構成元素 3 節 物質の三態	5				○	○	○
6	2 編 物質の構成 1 章 原子の構造と元素の周期表 1 節 原子の構造 2 節 電子配置 3 節 元素の周期表	5	・原子は、陽子・中性子・電子からなり万物の根源であることを学習する。	・原子の構造と基本的な概念や原理法則を理解させる。	プリント 授業態度 発問評価 ワーク 考査	○		○
7	2 章 化学結合 1 節 イオンとイオン結合 2 節 分子と共有結合 3 節 金属と金属結合 4 節 化学結合と物質の分類	1 4	・イオン結合と共有結合の違いに注意して化学結合のしくみを理解する。 ・金属の共通した性質を、金属を構成する原子どうしの結合と関連づけて理解する。	・具体例を用いて、イオンの価数を覚えさせる、色や形状の違いにより化合物を区別させる。 ・金属結合の構造を模型などを使って理解させる。	プリント 授業態度 発問評価 ワーク 実験 考査	○	○	○
9	3 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量	1 0	・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	・簡単な化学反応式からあてはめていき、未定係数法や、酸化還元反応式へと結びつける。 ・個数と質量と体積の値が物質の比にどう関連しているかを理解させる。	プリント 授業態度 発問評価 ワーク 考査 実験	○		○
1 0	2 節 物質質量 3 節 溶液の濃度 4 節 化学反応の表し方 5 節 化学反応式の表す量的関係	○				○	○	

1 1	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの現象とpHの関係と共通する性質や特徴を学ぶ。 ・モル濃度によりpHが決定されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質量とpHの関係を十分に理解させて、あわせて環境との関わりも同時に理解させる。 	プリント 授業態度 発問評価 ワーク 考査 実験	○		○	○
1 2	3節 中和反応と塩 4節 中和滴定					○		○	○
1	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼や金属の溶解などの身近な現象と酸化還元反応を関連付けて理解させる。 	プリント 授業態度 発問評価 ワーク	○		○	○
2	3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用		<ul style="list-style-type: none"> ・酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 ・酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化数、半反応式、量的関係などの求め方を、ワークシートや演習を通して身につけさせる。 	考査 実験	○		○	○
3	終章 化学が拓く世界	4	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験や調査を通して、化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。 		プリント 授業態度 発問評価 ワーク	○		○	○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材
2	理科 (生物基礎)	2年	新編 生物基礎 (数研出版)	生物基礎学習ノート (数研出版)

指導の目標 自身の生体や日常生活と関連付けながら、積極的に思考判断を行う習慣や観察実験の基本的な技能および知識を身につけ、自身の日常に還元する能力を養う。

評価の観点	① 知識及び技能	② 思考力・判断力・表現力	③ 主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察実験を行う。 ・実験で得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

月	単元・学習内容	時数	学習活動	指導上の留意	評価方法	評価の観点		
						①	②	③
4 5 6	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	12	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の定義について理解し、生物種間の共通点と相違点について学習する。 ・生命活動にはATPのエネルギーが必要であり、ATPは呼吸や光合成で合成されていることを理解する。 ・DNAの構造と塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物種間で見られる共通点と相違点を理解し、共通点の1つである、エネルギーの利用について特に理解を深めさせる。 	実験 ワーク 中間考査	○	○	◎
6 7 9	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	15	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの複製されるしくみを理解する。 ・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝を担う物質がDNAであり、細胞分裂において分配されることを理解させる。 ・タンパク質の合成が遺伝情報の発現であることを理解させる。 	実験 ワーク 期末考査	◎	◎	○
9 10 11 12	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	13 15	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節し、体内環境が維持されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体内環境である体液の状態をほぼ一定に保つためのしくみを理解させる。 ・免疫にはたらく細胞とそのはたらきを理解させる。 	ワーク 中間考査 ワーク 期末考査	◎	◎	○
1 2 3	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	15	<ul style="list-style-type: none"> 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ・多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・生態系のバランスと、人間生活が生態系に与える影響を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生は一定ではなく変化していることを理解させる。 ・気温と降水量によってバイオームが決定することを理解させる。 ・かく乱が生態系に及ぼす影響を考えさせる。 	ワーク 学年末考査	○	◎	○

シラバス 学校番号 11

令和5年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	理科(地学基礎)	2年 (文系)	地学基礎 啓林館	サンダイヤル Navi&トレーニング 新訂版 地学基礎 啓林館				
指導の 目標	1 地球や地球を取り巻く環境に関する原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。 2 観察や実験、観測結果の分析などを通して、地学的に探究する能力や態度、方法を身につける。 3 地学的な事物・現象から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して考察する姿勢を身につける。 4 地学的な事物・現象が、地球や地球を取り巻く環境および日常生活に密接に関連していることを意識できる。							
評価の 観点	① 知識及び技能 地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念を身に付けている。観察、実験、観測の基本操作を修得し、的確に記録、考察する技能を身に付けている。 ② 思考力・判断力・表現力 地学的な事物や現象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 地球や地球を取り巻く環境から問題を見だし、意欲的にそれらを探究しようとする態度が身につけている。							
月	単元・学習内容	時数	学習活動	指導上の留意	評価方法	評価の観点		
						①	②	③
4 5	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球	12	地球を全体で見たときの概観や内部構造について学習する。 地球の大地の活動について学習する。	地表面には多くの特徴的な地形が存在することに気づかせる。 地震波の速度から地震の震源までの距離の関係を理解させる。	ワーク タブレット 課題 中間考査 ワーク タブレット 課題	◎	○	○
	第2部 大気と海洋 第1章 大気と構造 第2章 太陽放射と大気・海水の運動	15	大気最下層の水の状態変化と気象の変化について学習する。 大気圏構造と状態について学習する。 太陽放射によって大気や海水が受ける影響とその運動について学習する。	大気の化学的、物理的性質を具体的に理解させる。 地球のエネルギー収支が釣り合っていることを理解させる。	ワーク タブレット 課題 期末考査	○	◎	○
9 10	第3章 日本の天気 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生	13	日本の天気の変化について学習する。 宇宙の誕生から、太陽系と地球の誕生までについて学習する。	各季節の天気の特徴を捉えさせる。 太陽の活動とその地球への影響について理解させる。	ワーク タブレット 課題 中間考査	◎	○	○
	第2章 地球と生命の進化 第3章 地球史の読み方	15	地球と生命がどのようにして現在の姿となったかについて学習する。 地球と生命の歴史を探り、読み解く方法について学習する。	地球が生命を育むことができる惑星であることを理解する。 地球環境の変化と生物の進化の関係を理解させる。	ワーク タブレット 課題 期末考査 ワーク タブレット 課題	○	◎	○
1 2 3	第4部 自然との共生	15	これまでの地学基礎での学習を振り返り、自然環境と人類の共生について考える。	自然からの恩恵、主に資源を題材にして考えさせる。 自然災害について、身近な問題を取り上げて考えさせる。	ワーク タブレット 課題 学年末考査	○	○	◎

シラバス 学校番号 1 1

令和5年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
3	保健体育 (体育)	第1学年(全)	Active sports2023 現代高等保健体育(大修館)				
指導の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するため、運動の多様性や必要性について理解できるようにするとともに、それらの技能を身につけることができるようにする。 ● 生涯にわたって運動を継続するための課題解決に向け思考し判断するとともに、自己や仲間の考えを他者に伝える力を育てる。 ● 運動における競争や協働の経験を通して、学びに向かう意欲を育てるとともに、健康安全を確保して生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。 						
評価の 観点	① 知識及び技能		② 思考力・判断力・表現力等	③ 学びに向かう力・人間性			
	運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 運動の実践に関する具体的な事項および、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。		自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考え方などを他者に伝えることができる。	運動に主体的に取り組み、相手を尊重し、自己の責任を果たそうとするとともに、一人一人の違いを大切にしようとする事ができる。 健康安全を確保することができる。			
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	体づくり運動	9	集団行動 体ほぐし運動 体力を高める運動 新体カテスト	授業記録 学習カード	○ ○	○ ○	○ ○
5	陸上競技	16	陸上競技の競技特性やルール等を学習する。	授業記録 記録計測 技能テスト 学習カード	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
6	球技①	18	特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
7	サッカー、テニスより選択						
	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	授業記録 学習ノート	○ ○	○ ○	○ ○
9	体づくり運動	2	体力を高める運動	授業記録 学習カード	○ ○	○ ○	○ ○
10	柔道、ダンスより選択	16	武道の理解、礼法 基本動作 対人的技能	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

11	球技② ソフトボール、バレーボールより選択	20	約束練習 試合、ルールと審判法 ダンスの理解 とらえ方の学習 表し方の学習 まとめ方の学習、 発表、鑑賞	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
12	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な 学習の仕方	授業記録 学習ノート	○ ○	○ ○	○ ○
1	体づくり運動	2	体力を高める運動	授業記録 学習カード	○ ○	○ ○	○ ○
1	バスケットボール	20	特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
2							
3	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な 学習の仕方	授業記録 学習ノート	○ ○	○ ○	○ ○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	保健体育 (体育)	第2学年(全)	Active sports2022 現代高等保健体育(大修館)				
指導の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するため、運動の多様性や必要性について理解できるようにするとともに、それらの技能を身につけることができるようにする。 ● 生涯にわたって運動を継続するための課題解決に向け思考し判断するとともに、自己や仲間の考えを他者に伝える力を育てる。 ● 運動における競争や協働の経験を通して、学びに向かう意欲を育てるとともに、健康安全を確保して生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。 						
評価の 観 点	① 知識及び技能		② 思考力・判断力・表現力等	③ 学びに向かう力・人間性			
	運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 運動の実践に関する具体的な事項および、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。		自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考え方などを他者に伝えることができる。	運動に主体的に取り組み、相手を尊重し、自己の責任を果たそうとするとともに、一人一人の違いを大切にしようとする事ができる。 健康安全を確保することができる。			
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	体づくり運動	6	集団行動 体ほぐし運動 体力を高める運動 新体力テスト	授業記録 学習カード	○ ○	○ ○	○ ○
5	陸上競技	12	陸上競技の競技特性やルール等を学習する。	授業記録 記録計測 技能テスト 学習カード	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○
6							
7	球技① サッカー、テニスより選択	14	特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○	○ ○
	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	授業記録 学習ノート	○ ○	○ ○	○ ○
9	体づくり運動	2	体力を高める運動	授業記録 学習カード	○ ○	○ ○	○ ○
10	球技② ソフトボール、バレーボールより選択	14	特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○	○ ○

11			試合、審判法				
12	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
1	体づくり運動	2	体力を高める運動	授業記録 学習ノート	○ ○	○ ○	○ ○
2	バスケットボール	14	特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法	授業記録 学習カード	○ ○	○ ○	○ ○
3	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	授業記録 技能テスト 学習カード	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
1	保健体育 (保健)	1 学年 (全)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)	図説現代高等保健 (大修館)			
指導の 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育てる。						
評価の 観 点	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③学びに向かう力、人間性				
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとする。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	現代社会と健康 1. 国民の健康課題 2. 健康の考え方と成り立ち 5 3. 健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり 6 7 4. 現代の感染症とその予防 5. 生活習慣病などの予防と回復	2	我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など 各種の指標や疾病構造の変化を通して理解する。	ノト点検 行動の観察 定期考査	○	○	○
		1	健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて理解する。		○	○	○
		3	ヘルスプロモーションの考え方に基づき適切な意思決定や行動選択により、自らの健康を適切に管理することが必要であること、環境づくりが重要であることを理解する。 適切な意思決定や行動選択には個人の知識、価値観、心理状態及び人間関係などを含む社会環境が関連していることを理解する。		○	○	○
		3	時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。 感染症の予防には衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。				
		5	生活習慣病などを予防するには適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解する。生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解する。				

	6. 喫煙、飲酒と健康 7. 薬物乱用と健康	2 2	喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることを理解する 薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことを理解する。				
9	8. 精神疾患の特徴	2	精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により精神活動が不全になった状態であることを理解する。	ハト点検 行動の観察 定期考査	○ ○	○ ○	○ ○
	9. 精神疾患への対処	3	精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることを理解する。				
10	安全な社会生活						
	10. 事故の現状と発生要因	2	事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、人的要因、環境要因などが関連していることを理解する。				
11							
	11. 安全な社会の形成	2	安全な社会の形成には、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることを理解する。				
12							
	12. 交通安全	2	交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることを理解する。				
1	13. 応急手当の意義	1	適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解する。	ハト点検 行動の観察 定期考査 実習	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	14. 日常的な応急手当	2	日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し応急手当ができるようにする				
2	15. 心肺蘇生法	3	心肺停止状態においては、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにする。				
3							

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
1	保健体育 (保健)	第2学年(全)	現代高等保健体育 (大修館)	図説現代高等保健 (大修館)			
指導の 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育てる。						
評価の 観 点	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③学びに向かう力、人間性				
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとする。				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	生涯を通じる健康 1. 思春期と健康	3	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題があることを理解できるようにする。	ノト点検 行動の観察 定期考査		○	○
5	2. 結婚生活と健康	3	結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることに理解できるようにする。		○	○	○
6	3. 加齢と健康	2	中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することを理解できるようにする。		○	○	○
7	4. 労働災害と健康	2	労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変わってきたことを理解できるようにする。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解できるようにする。		○	○	○
9	5. 働く人の健康の 保持増進	2	働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。		○	○	○
10	健康を支える 環境づくり 1. 環境の汚染と健康	2	人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。	○	○	○	
	2. 環境と健康に 関わる対策	2	人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。	○	○	○	
	3. 環境衛生に 関わる活動	2	上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて理解できるようにする。	○	○	○	
	4. 食品の安全性	2	人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれる	○	○	○	

			と、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて理解できるようにする。			
11	5. 食品衛生に関わる活動	2	食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて理解できるようにする。			
12	6. 我が国の保健・医療制度	2	我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解できるようにする。			
1	7. 地域の保健・医療機関の活用	2	健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて理解できるようにする。			
	8. 医薬品の制度とその活用	2	医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて理解できるようにする。			
2	9. 様々な保健活動や社会的対策	2	我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。			
	10. 健康に関する環境づくりと社会参加	2	自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できるようにする。			

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	芸術(音楽Ⅰ)	1 学年選択者	MOUSA 1 (教育芸術社)					
指導の 目 標	<p><音楽Ⅰの目標> 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>							
評価の 観 点	<p>① 知識及び技能</p> <p>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で示している。</p>			<p>② 思考力・判断力・表現力</p> <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>			
月	単元・学習内容	時数	学習活動	指導上の留意	評価方法	評価の観点		
						①	②	③
4	◇オリエンテーション	2 6	<ul style="list-style-type: none"> ・音Ⅰの内容や目標等を知る ・「校歌」練習(斉唱) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌練習は音美書合同で行う 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞テスト 観察 	○	○	○
5	◇歌声を育てる		<ul style="list-style-type: none"> ・歌う姿勢、呼吸法、発声法に気をつけて歌う ・日本や外国の歌唱曲に親しみ、曲の特徴を感じとり、イメージをもって歌う ・歌詞の内容、旋律の動きを捉え、楽曲に合うように表現を工夫する ・演奏者による表現の違いを比較、自身の表現を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の特徴(鼻濁音やrの発音)に触れる ・クラス斉唱、少人数レッスン等により個別のアドバイスも行う 	<ul style="list-style-type: none"> 観察/ワークシート 	○	○	○
6	◇表現(歌唱)		<ul style="list-style-type: none"> ・音高やリズム、楽譜の表記を理解し読譜や記譜する 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽経験に配慮した説明を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 筆記テスト 	○	○	○
7	◇1学期のまとめ ・歌唱発表(独唱)		<ul style="list-style-type: none"> ・意図や目標をもって発表曲を選び、独唱を行う 		<ul style="list-style-type: none"> 実技(自己評価含) 	○	○	○
	◇音楽を形づくる要素を知ろう		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素が、楽曲のイメージと結びついていることを理解する 		<ul style="list-style-type: none"> 観察/ワークシート 	○	○	○

9	◇日本語の語感を味わいながら歌おう	28	・日本語の語感を味わい、音楽の切なさを感じるコード進行を味わいながら歌う。	・朗読も入れ、語るような歌唱ができるようにする	観察/ワークシート	○	○	○
10	◇管楽器の奏法(ギター)		・ギターの特徴を理解し、基礎的な奏法を身につけ、音色や奏法の特徴を活かして演奏する。	・姿勢、音色へ意識が向くよう声かけする	観察/ワークシート/実技発表	○	○	○
11	◇日本の伝統音楽の響きを味わおう		・邦楽器の基礎奏法を理解し演奏する。 ・日本の伝統音楽の響きを味わいながら鑑賞する。	・音楽の味わい方について認識が深まるよう工夫する	観察/ワークシート/実技	○	○	○
12	◇鑑賞 世界の諸民族の音楽		・国や地域ごとの特徴や良さを味わって鑑賞する		鑑賞プリント	○	○	○
1	・アンサンブル発表	16	・2~4名の班に分かれ、アンサンブルの発表をめざし練習する。 ・イメージを共有し一体感のある表現を心がける	・班ごとの状況に応じた支援をする	観察/ワークシート	○	○	○
2								
3	◇コード進行をもとにして旋律を作ろう		・コードについて学んだ後、コードに合わせて旋律を作る。	・作りたいイメージに合った旋律を作れるよう、リズムや音の並べ方について助言する。	ワークシート/作品提出	○	○	○
	◇ミュージカルを鑑賞しよう		・ミュージカル作品の特徴や表現を学び鑑賞する。	・演出や舞台表現にも注目させる	ワークシート/観察	○	○	○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
2	芸術(美術Ⅰ)	1 学年選択者	美術Ⅰ(光村図書)					
指導の 目 標	<p>〈美術Ⅰの目標〉美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>							
評価の 観 点	<p>① 知識及び技能 ・対象や事象をとらえる造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</p>			<p>② 思考力・判断力・表現力 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p>			
月	単元・学習内容	時数	学習活動	指導上の留意	評価方法	評価の観点		
						①	②	③
4	オリエンテーション 美術史・鑑賞	4	・学習内容を知る。 ・基礎的内容を理解する。	美術の幅広さを感じさせる。	ワークシート記述	○		○
5	素描 「人物画」 「静物画」 「風景画」	6	・対象を観察する。 ・鉛筆の種類を使い分け、明暗の調子を表現する。	全体を捉え、次に細部の調子をつけさせる。	制作途中評価 作品評価 提出用紙記述	○ ○	○ ○	○ ○
6 7	絵画(アクリル) 「読書感想画」	1 6	・鉛筆で構成を練る。 ・感想画の主題を考え、表現方法を工夫する。 ・アクリル絵具の特性を理解して使用する。	構図や表現方法について理解を深め、魅力的な構成を探るよう促す。	ワークシート記述 制作途中評価 作品評価 提出用紙記述 小テスト	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
9 10	デザイン 文字の基礎、構成 「レタリング」 「名前の文字をデザインする」	1 0	・文字の成り立ちについて理解を深める。 ・創造的な表現の構想を練る。 ・レタリングを行う。	文字の形態の美しさやバランスに気づかせる。	ワークシート記述 制作途中評価 作品評価 提出用紙記述	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
1 1 1 2	映像メディア 「写真集を作る」	1 8	・映像メディア(写真)の特性を生かして主題を生成する。 ・光や視点について考えて撮影する。	主題に沿った構成やレイアウトを考えさせる。	ワークシート記述 制作途中評価 作品評価 提出用紙記述 小テスト	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

1	彫刻 「紙立体」(ケント紙)	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・立体造形の特徴や、素材の特性を理解する。 ・表現方法を工夫する。 	多方向から見て制作するよう心掛けさせる。	ワークシート記述	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
2					制作途中評価	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	鑑賞 「近代」		<ul style="list-style-type: none"> ・近代作家の作品を鑑賞し古典と現代のつながりを考える 	時代毎の様々な美術の表現が、現代に影響を与えていることに気付かせる。	提出用紙記述	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					レポート評価	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>

9 10 11 12	<p>篆書の学習</p> <p>篆刻の学習</p> <p>篆刻に挑戦しよう 落款と落款印 用具用材 刻る手順</p> <p>仮名の書</p> <p>仮名の成立と種類 文字の造形を学ぶ 基本的な筆使い 平仮名 変体仮名 連綿 古筆の鑑賞と臨書</p> <p>表現をくらべよう (古筆の比較鑑賞)</p> <p>受け継がれる仮名の書</p> <p>構成を学ぶ ・古筆に見る紙面構成 ・さまざまな構成方法</p> <p>創作する 古筆を生かした創作</p>	28	<p>篆書の特徴や筆遣いを知る。</p> <p>篆刻について理解し、名印を制作する。</p> <p>仮名の成立と種類について学ぶ。筆遣いの特徴を理解して練習する。字形や筆遣いを意識して平仮名を練習する。表現の幅を広げる変体仮名について知る。連綿の方法の理解し、練習する 蓬萊切の鑑賞と臨書 高野切第三種の鑑賞と臨書</p> <p>「関戸本古今和歌集」「元永本古今和歌集」を比較鑑賞し、同じ和歌でも表現の違いによって印象が違ってくること感じ取る。古筆が様々な形で受け継がれてきたことを知る。</p> <p>「継色紙」「寸松庵色紙」「升色紙」を鑑賞し、表現の違いを知り、紙面構成の美を味わう。様々な構成方法を知り、創作に生かす。</p> <p>好きな俳句等を選び、表現を工夫して作品を創作する。創作例を鑑賞し、連綿や配置の工夫等を参考に、創作に生かす。</p>	<p>・字形などの特徴を説明し、篆刻の学習に繋げる。</p> <p>・字形や文字の配置など間違いのないように添削を繰り返して指導する。</p> <p>・正しい筆の持ち方や腕の構え方など身に付けさせる。基本的筆遣いを繰り返し練習させ、筆遣いに慣れさせる。</p> <p>・教科書に掲載の作品を実際に硬筆で書いてみるなどして、理解しやすいようにする。</p> <p>・工夫の仕方を分かりやすく説明する。</p> <p>作品全体の仕上がりをイメージしやすいように、硬筆で草稿を複数書かせる。添削をしながら、墨継ぎの位置などを助言していく。</p>	<p>学習プリント</p> <p>篆刻制作プリント 草稿、印影 取り組む態度 小テスト</p> <p>学習プリント 提出作品 取り組む態度 小テスト</p> <p>鑑賞プリント</p> <p>学習プリント</p> <p>鑑賞プリント</p> <p>創作プリント 提出作品 取り組む態度</p>	○	○	○	○	○	○	○	○
1 2 3	<p>漢字仮名交じりの書</p> <p>漢字仮名交じりの書とは心に響く言葉を書く (名筆の鑑賞)</p> <p>創作する</p> <p>・漢字と仮名の調和 ・好きな言葉を書く ・表現の幅を広げる</p> <p>・文士の書を見に行こう</p> <p>創作作品の鑑賞</p>	16	<p>漢字仮名交じりの書とはどのような分野なのかを理解する。 ・名筆を鑑賞し、作品の印象や書者の意図などを捉え、創作の参考にする。</p> <p>・漢字と仮名の調和について理解し、表現する。 ・好きな語句を選び、表現したい作品のイメージを明確にして創作する。 ・書体や字形、紙面構成など表現の意図に沿った工夫をして創作する。</p> <p>・独自の個性や美意識から生み出された文学者の筆跡を鑑賞し、文字を書き付ける息づかいを感じ取る。 ・相互の作品を鑑賞し、文章にまとめ発表する。</p>	<p>・鑑賞の観点を示し、鑑賞の方法を分かりやすく説明する。 ・作品から感じたことを具体的に言葉で説明させる</p> <p>漢字と仮名を調和について、理解しやすいように既習の古典を取り上げて練習させる。 ・作品のイメージ、表現の意図を明確にさせる。 ・試作を添削し、表現したいイメージに近づけるように助言する。</p> <p>・鑑賞の観点を示し、鑑賞させる。</p> <p>鑑賞の観点を示し、鑑賞させる。</p>	<p>鑑賞プリント</p> <p>学習プリント 提出作品 取り組む態度</p> <p>鑑賞プリント</p> <p>鑑賞プリント</p>	○	○	○	○	○	○	○	○

シラバス 学校番号 11

令和5年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科(科目)	学年・組	教科書名	使用教材				
3	外国語 (英語コミュニケーションI)	1学年・全	Grove English Communication I	Grove English Communication I ベーシックノート・ワークブック				
指導の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ・情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸長する。 ・英語学習を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、広い視野から国際理解を深める。 							
評価の 観点	① 知識及び技能	② 思考力・判断力・表現力	③ 主体的に学習に取り組む態度					
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容について、背景知識をもとに理解できる。 ・質問や会話に、簡単な表現を使って答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を聞いたり読んだりして、話し手や聞き手の意図を把握することができる。 ・学習した表現を活用して、簡潔にまとめたり、発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に伝わるように音読や暗唱を行うことができる。 ・話題について、自分の意見を持つことができる。 ・話題について、自分の意見を伝えたり、他者と意見の交換をしたりすることができる。 					
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	
中間	4 Lesson1 Communication with People Around the World	36	<ul style="list-style-type: none"> ・日英のあいさつや日常表現の使い方の違いや注意すべき点などを理解して、考えを深めることができる。 ・海外の人とよいコミュニケーションをとるために、あいさつや日常表現の大切さや気をつけるべきことについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。 【文法】「S+V」「S+V+C」「S+V+O」の文型, 時制	授業中の活動 暗唱テスト パフォーマンステスト 小テスト 定期考査	○	○	○	
	5 Lesson2 Pets and Humans: Together Through Time				<ul style="list-style-type: none"> ・ペットと人間の関係やペットの役割が時代とともに変化していることを理解して、考えを深めることができる。 ・ペットと人間の関係の変化やペットの役割が将来どうなっていくのかについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。 【文法】名詞句, to不定詞の名詞的用法, 動名詞	○	○	○
	6 Lesson3 Musubi- Ties and Knots				<ul style="list-style-type: none"> ・日本の手工芸と結びの文化について、理解して考えを深めることができる。 ・日本では結び方や結び目に特別な意味や思いがこめられていることについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。 【文法】「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」の文型, 進行形	○	○	○
	Lesson4 The Power of				<ul style="list-style-type: none"> ・キノコの効用や意義について、理解して考えを深めることができる。 	○	○	○

7 期末	Mushrooms		<ul style="list-style-type: none"> ・森の生態系を守るためにキノコが果たしている重要な役割について、意見を交換してまとめ、発表することができる。 <p>【文法】現在完了形，過去完了形，「S+V+O (=that節)」</p>				
9	Lesson5 Braille Neue: Connecting Dots with Lines	42	<ul style="list-style-type: none"> ・点字のなりたちや歴史について、理解して考えを深めることができる。 ・誰もが読むことのできる新しい点字の意義や可能性と視覚障がいを持つ人たちとのコミュニケーションについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。 <p>【文法】受け身，分詞の形容詞的用法，助動詞を含む受け身，to不定詞の形容詞的用法</p>				○ ○ ○
10	Lesson6 Is This Meat Real or Fake?		<ul style="list-style-type: none"> ・フードテックがもたらすフェイクフードや代替肉の利点や問題点について、理解して考えを深めることができる。 ・フェイクフードや代替肉と食糧問題や環境問題との関わりについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。 <p>【文法】主格の関係代名詞，to不定詞の副詞的用法，目的格の関係代名詞，関係代名詞what</p>	授業中の活動 暗唱テスト パフォーマンステスト 小テスト 定期考査			○ ○ ○
中間	Lesson7 Plastic Polluting Our Oceans		<ul style="list-style-type: none"> ・海洋プラスチックや食品ロスなどの環境問題や食糧問題について、理解して考えを深めることができる。 ・プラスチックごみが海洋生物の命や生態系をも危険にさらしていることについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。 <p>【文法】比較，「It is+~ (for ~)+to不定詞」「S+V+O1+O2 (=that節)」「S+V+O+to不定詞」</p>				○ ○ ○
11	Lesson8 Manga: A Global Hit!		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の代表的なポップカルチャーであるマンガについて、理解して考えを深めることができる。 ・世界的なマンガ人気の理由について、意見を交換してまとめ、発表することができる。 <p>【文法】「S+V+O+C (=原形不定詞)」「It is +形容詞 [名詞]+that節」「S+V+O (=疑問詞節など)」「S+V+O+C (=現在分詞)」</p>				○ ○ ○
12	Lesson9 The Mysteries and Secrets of Petra	27	<ul style="list-style-type: none"> ・ペトラ遺跡が有名になった経緯とペトラの盛衰の歴史について、理解して考えを深めることができる。 ・ペトラ遺跡の謎とそれが考古学の新しいアプローチにより解明されるかもしれないことについて、意見を交換してま 				○ ○ ○
1							

<p>2 学年 末 3</p>	<p>Lesson10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference</p>	<p>とめ、発表することができる。 【文法】関係副詞 (when, where, why, how), 仮定法過去, 完了進行形</p> <p>・環境活動家グレタ・トゥーンベリさん の行動や主張について、理解して考えを 深めることができる。 ・地球温暖化や環境破壊の問題を解決す るためにできることについて、意見を交 換してまとめ、発表することができる。 【文法】関係副詞 (when, where, why, how), 仮定法過去, 完了進行形</p>		○	○	○
-----------------------------	--	--	--	---	---	---

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	家庭 (家庭基礎)	1 学年 普通科	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
指導の目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技術を身につける。 2. 習得した知識や技術を活用し、家庭や地域及び社会における生活課題を解決する力を養う。 3. 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。						
評価の観点	① 知識及び技能		② 思考力・判断力・表現力		③ 主体的に学習に取り組む態度		
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	第1章 生涯を見通す	3	・自立した生活を営むためにライフステージの特徴や課題を理解する。	プリント 課題	○	○	○
	第2章 人生をつくる	5	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、様々な生き方について理解する。	プリント	○		○
5	第3章 子どもと共に育つ	8	・家庭生活の意義と現代の家族に求められる機能について理解する。 ・子どもの人間形成に関わる親の役割について理解する。 ・社会全体で子育てを支援していくための方策について考える。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか考え、実践しようとする。 ・被服の役割や選択、購入する際の注意点を理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、被服の手入れや洗濯、保管の注意点を学習する。 ・縫いものなどの基本的な知識と技術を学習する。	レポート 課題	○	○	○
	中間	第7章 衣生活をつくる	10		プリント レポート	○	○
7	期末			考査 プリント 課題	○	○	○
夏季休業	ホーム プロジェクト		・生活の中の問題点を見出し、それを解決するための実践活動を行う。	プリント	○	○	○

9	第6章 食生活をつくる	14	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の課題について学習する。 ・栄養素の種類や機能を理解し、栄養のバランスのとれた食事を考える。 ・食品の栄養的特徴と調理上の性質について学習する。 ・栄養や食品、調理法について理解し、調理実習を通して調理の基本的技術を学ぶ。 	プリント 提出作品	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
10							
中間							
11	第4章 超高齢社会を共に生きる	5	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特徴や高齢者を取り巻く社会情勢について学習する。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題、私達にできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・国、地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。(社会保障と福祉サービス) 	審査 プリント 課題 プリント	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	第5章 共に生き、共に支える	3		プリント	○		○
期末							
1	第9章 経済生活を営む	10	<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性を理解する。 ・消費者問題を知り、その対策について学ぶ。 ・社会経済と家庭経済の関係について学習する。 	プリント 実習 レポート 審査	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	第10章 持続可能な生活を営む	3	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。 	プリント 課題 レポート プリント	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
2							
	第8章 住生活をつくる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能やライフステージごとの住要求について学習する。 ・快適な住まいの条件について理解する。 	プリント 実習 レポート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	第11章 これからの生活を創造する	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしいライフスタイルを描きながら、生活設計を考える。 ・持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする 	プリント 審査	○ ○	○ ○	○ ○
学年末							
				プリント 課題	○ ○	○ ○	○ ○

シラバス 学校番号 1 1

令和 5 年度

富山県立富山西高等学校

単位数	教科 (科目)	学年・組	教科書名	使用教材			
2	情報 (情報 I)	1 年	第一学習社 情報 I	ポイントでマスター 基礎からはじめる 情報リテラシー Office2019対応			
指導の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題を発見・解決する力を習得する。 ・問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を習得する。 ・WordやExcel等の社会で使用されているソフトウェアの基本操作を習得する。 						
評価の 観 点	① 知識及び技能 <ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する、様々な言葉の意味を理解できる。 ・社会で一般的に利用されているソフトウェアの基本的な操作ができる。 	② 思考力・判断力・表現力 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報機器を利用して情報を集め、その正確性を考えた上でまとめ、分かりやすく表現することが出来る。 	③ 主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を、情報機器などを用いて調べてまとめ、理解しようとする。 ・各種ソフトウェアの使い方を習得し、作品制作に取り組もうとする。 				
月	単元	時数	学習内容	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
4	第1章 情報社会の問題解決 第1節 情報の活用 1 情報とメディア 2 情報の検索と活用 第2節 個人の責任と情報モラル 1 情報セキュリティの重要性 2 情報モラル	1 2 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の重要性について理解する。 ・様々なメディアの特徴を知り、情報を収集するときの手段を選択する。 ・情報の受信者と発信者としてのあり方を理解する。 ・検索サイトの利用方法を知る。 ・情報を共有する事例を知る。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
5	3 情報に関する法規や制度 第3節 情報技術の役割と影響 1 情報技術と生活の変化 2 情報技術と未来の生活 第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第1節 コミュニケーション手段の特徴 1 コミュニケーション 2 コミュニケーション手段と表現メディア	2 1 1 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティについて理解する。 ・セキュリティ侵害とその対応について理解する。 ・情報モラルがどのようなものか理解する。 ・情報機器との付き合い方について考えをまとめる。 ・SNSを使うことの利点と、使うことによって生じる問題点を知る。 ・情報発信を行うときの情報モラルについて理解する。 ・知的財産権と著作権について知る。 ・不正アクセス禁止法について知る。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
			<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術によって、自分たちの生活がどのように変化してきたかを考える。 ・情報技術によって、未来の生活がどのように変化していくかを考える。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報の伝達手段を知る。 ・手段によって、コミュニケーションに制限が生じることを理解する。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

			<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークで使われているコミュニケーション手段の特徴を知る。 ・情報通信ネットワーク上での情報の表現方法を知る。 				
6	第2節 情報デザイン						
	1 情報デザインとは	1	<ul style="list-style-type: none"> ・文書デザインの考え方を知る。 ・文書デザインがわかりやすさや使いやすさに大きな影響を与えていることを知る。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	2 わかりやすい表現	2	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構造とフォントについて知る。 ・レイアウトの効果を知る。 ・図解の効果を知る。 				
	第3節 コミュニケーションと効果的なデザイン						
	1 効果的な表現	1	<ul style="list-style-type: none"> ・データを表にまとめ、グラフで表す方法を知る。 ・コンピュータでの画像の使い方を知る。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	2 情報デザインの実践	2	<ul style="list-style-type: none"> ・音や動画の扱われ方を知る。 ・デザインの作成を行う。 ・改善や共有、発信を知る。 				
	【実習】ワープロソフトの使い方 (4月～6月中)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Wordでワープロソフトの基本的な使い方と機能を知る。 	作品の提出	○		○
7	第3章 コンピュータとプログラミング						
	第1節 コンピュータのしくみと働き						
	1 コンピュータと数	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの内部では2進法を使っていることを理解する。 ・補数表現を知る。 ・コンピュータでの計算には、誤差が伴うことを知る。 	発問 学習ノート 考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
9	2 コンピュータの働くしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成を知る。 ・ソフトウェアとハードウェアの関係を知る。 ・論理回路を知る。 				
	3 さまざまなデータをコンピュータで扱う	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ内部の文字の表現について知る。 ・コンピュータ内部の音・画像・動画の表現について知る。 ・データがデジタル化されることの利点を知る。 ・光の3原色について知る。 				
10	第2節 モデル化とシミュレーション						
	1 モデルとモデル化	1	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化とはなにかを知る。 	発問	○	○	○
	2 コンピュータとシミュレーション	2	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなシミュレーションが使われていることを知る。 ・表計算ソフトでシミュレーションを行う。 	学習ノート 考査	○ ○	○ ○	○ ○
	第3節 プログラムと問題解決						
	1 アルゴリズム	3	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの考え方について理解する。 ・プログラムを実際に組み、銅座を確認する。 	発問 学習ノート 考査 制作したデータ	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

11	2	アルゴリズムの工夫	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムによって、処理の効率が変わることを知る。 ・配列とその構造を理解する。 					
		【実習】表計算ソフトの使いかた(9月～11月)	12	<ul style="list-style-type: none"> ・MicrosoftExcelを利用し、表計算ソフトの基本的な使い方と機能を知る。 	作品の提出		○		○
		第4章 情報通信ネットワークとデータの活用							
		第1節 情報通信ネットワークのしくみ							
12	1	1 情報を送受信するしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークで使われる機器を知る。 ・インターネットのしくみについて理解する。 ・さまざまなプロトコルが使われていることを知る。 	発問 学習ノート 考査		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
		2 インターネット上のサービスのしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上のサービスはクライアントサーバ型であることを知る。 ・Webのしくみを理解する。 ・HTMLとCSSを知る。 					
				<ul style="list-style-type: none"> ・電子メールの送受信のしくみを知る。 ・情報の効率的な伝達のしくみを理解する。 					
1	3	3 情報セキュリティの方法	1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティポリシーについて知る。 ・組織における技術的な対策を知る。 ・セキュリティを守る技術について理解する。 					
		第2節 情報システムとデータ管理							
		1 情報システム	1	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな情報システムが使われていることを知る。 	発問 学習ノート 考査		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
		2 データベース	1	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースとは何かを知る。 					
		3 データの収集と整理	1	<ul style="list-style-type: none"> ・質的データと量的データの違いを理解する。 ・尺度水準の意味を理解する。 ・欠損地と外れ地を知る。 					
		第3節 データの分析と活用							
2	1	1 データの分析	3	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストマイニングを行う意味を知る。 	発問 学習ノート 考査		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
3	2	2 データの活用	2	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンデータを利用して分析する。 ・アンケート調査を行い、分析する。 					
		【実習】プレゼンテーションソフトの使い方(1～3月中)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・MicrosoftPowerPointを使用し、プレゼンテーションソフトの基本的な使い方を知る。 	作品の提出		○		○